

都市再生整備計画 事後評価シート
南流山駅周辺地区

令和6年3月

千葉県流山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県	市町村名	流山市	地区名	南流山駅周辺地区			面積	120ha
交付期間	平成29年度～令和4年度	事後評価実施時期	令和5年度	交付対象事業費	671.0	国費率	0.478		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【地域生活基盤施設事業】地域情報板整備事業(南流山駅前)、地域防災施設整備事業(南流山中央公園)、防災備蓄倉庫整備事業(南流山小) 【高質空間形成事業】道路緑化事業(南流山中学校脇歩道)、太陽光照明整備事業(南流山中央公園)						
		提案事業							
		事業名	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【高次都市施設】南流山・木地区地域交流センター整備事業	既存施設の稼働率増に対して地域交流センターの整備を検討していたが、既存施設の増築で対応することとし、当該センター施設は子育て世代活動支援センターとして整備することとなったため。		地区内のコミュニティ施設の利用者数を指標に設定していたが、整備施設の変更に伴い削除した。			
		提案事業							
	新たに追加した事業	基幹事業	【公園】近隣公園再整備事業(南流山中央公園)	老朽化した野球場や休憩、修景施設を再整備し、子育て世代の増加に伴い求められる子ども・子育て世代のコミュニティ拠点や、災害時の指定緊急避難場所としての役割に対応するため。		当該計画内で整備する公園の増加に伴い、住環境に関わる指標2・3の目標値を修正した。			
			【高質空間形成事業】用水路跡地整備事業(坂川用水路跡地)	散策路整備に伴う流動人口の増加による地域の活性化と、災害時の安全な避難ルートを確保するため。		指標2・3について、住環境の向上により近隣住民の住み心地への満足度が高まると考えられる。			
			【高質空間形成事業】公衆トイレ整備事業(南流山3号公園)	老朽化した公衆トイレをバリアフリー対応に再整備し、子育て世代の増加に伴い求められる子ども・子育て世代のコミュニティ拠点や、災害時の一時避難地としての役割に対応するため。		指標2・3について、住環境の向上により近隣住民の住み心地への満足度が高まると考えられる。			
			【高次都市施設】南流山子育て世代包括支援センター整備事業	同地区において子育て世代が著しく増加し、子育て支援に関するニーズが高まったため、地域交流センター整備事業から当該施設整備に計画を変更したものの。		事業追加に伴い、地区内の子育て施設の利用者数を用いた新たな指標を追加した。			
		提案事業							
交付期間の変更	当初	平成29年度～平成33年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	なし					
	変更	平成29年度～令和4年度							

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	市民の安心安全に関する満足度	%	49.8%	H28	54.8%	R4	—	59.5%	○	あり	-	南流山中央公園を再整備し、防災設備も設置したことや、小学校への防災備蓄倉庫の設置により、災害時の避難場所等としての機能が高まり、近隣住民の安全につながったと考えられる。	-
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標2	住み心地が良いと思う人の割合	%	29.9%	H28	35.0%	R4	—	23.5%	×	あり	-	指標としては、「住み心地が良いか」という設問に「そう思う」と回答した人のみを指標値として設定したため目標達成には至らなかったが、その他の数値指標から、公園や緑地の整備、駅前広場の整備等による住環境の向上に効果があったと考える。	-
	指標3	住み続けたいと思う人の割合	%	43.7%	H28	48.8%	R4	—	38.8%	×	あり	-	指標としては、「『ずっと』住み続けたい」と思う人のみを指標値として設定したため目標達成には至らなかったが、公園や緑地の整備、駅前広場の整備、防災設備の整備により、まちの賑わいや安全性が向上し、事業効果があつたものとする。	-
	指標4	地区内の子育て施設の利用者数	人	40,000人	H28	65,000人	R4	—	86,535人	○	あり	-	令和4年12月開設から1年間が経過したため、従前値や目標値と比較できる利用者数の実績値として令和4年12月～令和5年11月末日までを集計した。目標値を上回る値となり、一時預かりやその他の子育て支援機能が集約されていることで、子育て世代の地域的な交流拠点として機能していると考えられる。	-
											なし	-		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	住み心地が良いと思う人の割合(そう思う+どちらかと言えばそう思う)	%	83.5%	H28				82.7%				住み心地が良いと思う人は8割以上の高い割合でほぼ横ばいである。指標2に関連する事業により、公園や緑地の整備、駅前広場の整備等による住環境が全体として高い満足度を得られているものと推察する。	-
	その他の数値指標2	住み続けたいと思う人の割合(ずっと+当分は)	%	80.1%	H28				88.3%				指標3に関連する事業により、公園や緑地の整備、駅前広場の整備、防災設備の整備により、まちの賑わいや安全性が向上し、住み続けたいと思う人の割合が上昇した。	-
	その他の数値指標3	住み続けたい理由に「周辺の住環境」を選んでいる人の割合	%	29.7%	H28				52.0%				市民の「住み続けたい」という意向に「住環境の良さ」が及ぼす影響が大きくなっていることがうかがえる。当該事業による成果の一つである良質な住環境の整備が図られたものとする。	-
4)定性的な効果発現状況														
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		・市が毎年実施しているアンケートにおいて、指標値の実績を取得していたため、当該計画としてのモニタリングは実施していない ・担当課で事業進捗を把握し、整備する公園が増加した際には、過去の数値状況を考慮し、目標値を上方に計画変更するなどの対応をとった				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も、まちづくり事業の成果の現れの一つとして、市アンケートによる市民の満足度等の取得を継続していく。			
	官民連携による取組		・学識者への意見聴取を実施した ・地元住民等へのニーズ調査等を実施した				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 整備後も、ニーズ調査で挙げられた要望にかなう施設として適切な維持管理を行っていく。			
	持続的なまちづくり体制の構築		・当該計画事業におけるまちづくり組織の設立には至っていないが、地域住民への説明や、ニーズ調査の実施により、住民のまちづくりへの参画をはかることができた				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 計画期間終了後も継続される当該地域でのまちづくりに係る事業において、土地利用の在り方や、民間活力の活用とその体制づくりを検討していく。			

様式2-2 地区の概要

南流山駅周辺地区(千葉県流山市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標:安全で良質な交通結節点をめざしたいつまでも住み続けたいまちづくり 小目標①:人口増加に対応した安心安全なまちづくり 小目標②:暮らしやコミュニティに配慮した快適で魅力あるまちづくり	市民の安心安全に関する満足度	単位:%	49.8%	H28	54.8%	R4	59.5%	R4
	住み心地が良いと思う人の割合	単位:%	29.9%	H28	35.0%	R4	23.5%	R4
	住み続けたいと思う人の割合	単位:%	43.7%	H28	48.8%	R4	38.8%	R4
	地区内の子育て施設の利用者数	単位:人	40,000人	H28	65,000人	R4	86,535人	R4



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 新たな住民が多く、コミュニティ施設の不足による住民間の連携が希薄であることから、地域活性化の拠点となる場の整備 →公園の再整備や、子育て世代包括支援センターの整備により、地域の賑わいや交流の場が生まれた。 定住人口・交流人口の増加に対応した防災備品の確保や避難所の確保 →公園への防災施設の整備や、小学校への防災備蓄倉庫の整備により、地域の防災力が向上した。 災害時に限らず安心安全で快適な生活を日常的に実現するための暮らしやコミュニティに配慮した施設整備 →歩道や用水路跡地、地域情報板の整備により、利便性や安全性、景観といった観点からも住環境が向上した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> さらなる地域活性化のため、住民はもちろん、民間の声・力を取り入れた駅前のみまちづくりを推進する 鉄道交通の利便性等から、引き続き住民数の多い地域としての災害への備えが必要と見込まれること 当該計画で事業を実施した以外の箇所についても、引き続き必要な整備等を進めていく

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- ・国土交通省の「都市再生整備計画等 評価の手引き 令和4年度版」に則り、適切に作成されている。
- ・該当駅を利用する市民を対象としていることからその評価に一定の妥当性は認められるが、理想的には本計画の事業地・事業内容についてその利用者を対象に個別に効果検証が行われるべき。

- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●		人口増加に対応した防災施設、暮らし、コミュニティ施設等を整備することにより、安心安全で快適な市街地整備を推進する。	大目標：安心安全を柱としたいつまでも住み続けたい魅力あるまちづくり 小目標①：人口増加に対応した安心安全なまちづくり 小目標②：暮らしやコミュニティに配慮した快適で魅力あるまちづくり	制度改正及び市総合計画の策定に伴い変更
B. 目標を定量化する指標	●		指標4：既存南流山センター利用者と(仮称)南流山・木地区地域交流センターの利用者の合計	指標4：地区内の子育て施設の利用者数(既存の周辺児童センターの利用者と(仮称)南流山子育て世代包括支援センターの利用者の合計)	事業の変更に伴い変更
C. 目標値	●		指標2：住み心地が良いと思う人の割合 34.9% 指標3：住み続けたいと思う人の割合 48.7%	指標2：住み心地が良いと思う人の割合 35% 指標3：住み続けたいと思う人の割合 48.8%	事業の追加等に伴い修正
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業										(金額の単位は百万)	
事業	事業箇所名		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況		
			事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み	
道路											
公園	近隣公園再 整備事業	南流山中央公園	—	—	249	12,155㎡	老朽化した野球場や休憩、修景施設を再整備し、子育て世代の増加に伴い求められる子ども・子育て世代のコミュニティ拠点や、災害時の指定緊急避難場所としての役割に対応するため新規で事業を追加	指標2、3に良い影響を与える	●		
河川											
下水道											
駐車場有効利用システム											
地域生活基盤施設	地域情報板整備事業	南流山駅前	6	4基	3	4基	事業内容の精査により減額	指標2、3に良い影響を与える	●		
	地域防災施設整備事業	災害用井戸	6	1基	6	1基	—	指標1、小目標①に良い影響を与える	●		
		かまどベンチ		4基		4基	—	指標1、小目標①に良い影響を与える	●		
		避難所等案内板		1基		1基	—	指標1、小目標①に良い影響を与える	●		
	防災備蓄倉庫整備事業	防災備蓄倉庫	4	14.4㎡	4	14.4㎡	—	指標1、小目標①に良い影響を与える	●		

事業	事業箇所名		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況	
			事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
高質空間形成 施設	道路緑化事 業	南流山中学校協歩道	10	150m	9	150m	事業内容の精査により減額	指標2、3に良い影響を与える	●	
	太陽光照明 整備事業	南流山中央公園	2	2基	1	2基	事業内容の精査により減額	指標1、小目標①に良い影響を与える	●	
	用水路跡地 整備事業	坂川用水路跡地	—	—	38	450m	散策路整備に伴う流動人口の増加 による地域の活性化と、災害時の 安全な避難ルートの創出のため、 新規で事業を追加	指標2、3に良い影響を与える	●	
	公衆トイレ 整備事業	南流山3号公園	—	—	10	便器、手洗い	老朽化した公衆トイレをバリアフ リー対応に再整備し、子育て世代 の増加に伴い求められる子ども・子 育て世代のコミュニティ拠点や、災 害時の一時避難地としての役割に 対応するため、新規で事業を追加	指標2、3に良い影響を与える	●	
高次都市施設	(仮称)南流山・木地区地域交流センター 整備事業		301	729㎡	—	—	地域交流センターから、子育て世 代包括支援センターに整備施設が 変更となったことから、削除	指標4に影響することから、整備施設に即した内容に変更	—	—
	(仮称)南流山子育て世代包括支援セン ター		—	—	351	602㎡	同地区において子育て世代が著し く増加し、子育て支援に関する ニーズが高まったため、新規で事 業を追加	指標4に良い影響を与える	●	
既存建造物活 用事業										
都市再生交通 拠点整備事業										
土地区画整理 事業(都市再 生)										
住宅市街地 総合整備事業										

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	市民の安心安全に関する満足度	%	—	—	49.8%	H28	54.8%	R4	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	—
									事後評価	確定見込み ●	59.5%	事後評価	○	—	
指標2	住み心地が良いと思う人の割合	%	—	—	29.9%	H28	35.0%	R4	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	○
									事後評価	確定見込み ●	23.5%	事後評価	×	—	
指標3	住み続けたいと思う人の割合	%	—	—	43.7%	H28	48.8%	R4	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	○
									事後評価	確定見込み ●	38.8%	事後評価	×	—	
指標4	地区内の子育て施設の利用者数	人	—	—	40,000人	H28	65,000人	R4	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	—
									事後評価	確定見込み ●	86,535人	事後評価	○	—	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	目標値を上回る結果となった。	なし
指標2	目標値に届かず、従前値の数値を下回ってしまった。	指標値の取得において、住み心地が良いかを尋ねる設問に対し、「そう思う」という回答のみを使用したところ、左記の結果となったが、「どちらかというと思う」という回答も含めると8割以上の高い値でほぼ横ばいである。このことから、「住み心地が良い」という評価は維持されている。今後、指標値の設定の際には使用する回答の選択肢にも留意したい。
指標3	目標値に届かず、従前値の数値を下回ってしまった。	指標値の取得において、「ずっと住み続けたい」という回答のみを使用したところ、左記の結果となったが、「当分は住み続けたい」という回答も含めると従前値より上昇している。このことから、「住み続けたい」と思う人は増加している。今後、指標値の設定の際には使用する回答の選択肢にも留意したい。
指標4	目標値に達する見込みである。	なし

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
				基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	住み心地が良いと思う人の 割合(そう思う+どちらかと 言えばそう思う)	%	例年11、12月に実施している「まちづくり達 成度アンケート」の「流山市は、住み心地が 良いまちですか」の設問に、「そう思う」・「どち らかというと思う」と回答した南流山駅を 利用する市民の割合。	81.4%	H24	83.5%	H28	モニタリング			指標2が従前値を下回る結果と なったが、「住み心地が良い」と 思う人の実態を反映していな かったため。	なし
								事後評価	確定 ○ 見込み	82.7%		
その他の 数値指標2	住み続けたいと思う人の割 合(ずっと+半分住み続けたい)	%	例年11、12月に実施している「まちづくり達 成度アンケート」の「これからも流山市に住み 続けたいですか」の設問に、「ずっと住み続け たい」・「当分は住み続けたい」と回答した南 流山駅を利用する市民の割合。	82.3%	H24	80.1%	H28	モニタリング			指標3が従前値を下回る結果と なったが、「住み続けたい」と思 う人の実態を反映していなかつ たため。	なし
								事後評価	確定 ○ 見込み	88.3%		
その他の 数値指標3	住み続けたい理由に「周辺 の住環境」を選んでいる割 合	%	その他の数値指標2で該当する回答のうち、 その理由として「周辺の住環境がよい」を挙 げている割合。	29.0%	H24	29.7%	H28	モニタリング			事業の直接的な成果の一つで ある「住環境の向上」を計ること ができる指標であると考えられ るため。	なし
								事後評価	確定 ○ 見込み	52.0%		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

鉄道交通において2路線が乗り入れる都心からの玄関口として、子育て世代を中心に人口が増加し、まちなみの整備や、周辺地域の開発・整備が進んだことで、地域の活性化につながった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
・市が毎年実施しているアンケートにおいて、指標値の実績を取得していたため、当該計画としてのモニタリングは実施していない ・担当課で事業進捗を把握し、整備する公園が増加した際には、過去の数値状況を考慮し、目標値を上方に計画変更するなどの対応をとった	予定どおり実施した		—	今後も、まちづくり事業の成果の現れの一つとして、市アンケートによる市民の満足度等の取得を継続していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 左記のとおり)	●		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
・学識者への意見聴取を実施した ・地元住民等へのニーズ調査等を実施した	予定どおり実施した	●	南流山中央公園の再整備について、学識者等から構成される委員会に意見を諮ったほか、現地でオープンハウスを実施し、地元自治会の住民にアンケート調査を行った。また、学童にヒアリングを行うなどのニーズ調査を行った。	再整備後も、ニーズ調査で挙げられた要望にかなう公園として適切な維持管理を行っていく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)		(仮称)南流山子育て世代包括支援センターの整備について、学識者等から構成される流山市子ども・子育て会議で意見を諮ったほか、近隣住民等を対象に説明会を行った。	整備後も、寄せられたご意見等にかなう施設として適切な維持管理を行っていく。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
・当該計画事業におけるまちづくり組織の設立には至っていないが、地域住民への説明や、ニーズ調査の実施により、住民のまちづくりへの参画をはかることができた	予定どおり実施した		—	—	計画期間終了後も継続される当該地域でのまちづくりに係る事業において、民間活力の活用とその体制づくりを検討していく。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由 左記のとおり)	●			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係各課	関係各課の担当者 (まちづくり推進課、みどりの課、防災危機管理課、子ども家庭課、道路建設課、河川課、企画政策課)	令和5年9～10月	総合政策部企画政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標4		指標	
指標名		市民の安心安全に関する満足度		地区内の子育て施設の利用者数		—	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	近隣公園再整備事業	◎	地域の主要な公園の一つである南流山中央公園に防災施設を整備したほか、災害時の避難所となる南流山小学校に防災備蓄倉庫を整備したことで、地域の防災への備えが充実した。また、同公園や歩道、用水路跡地の整備により、住民にとって憩い・賑わいだけでなく、災害時のさまざまなリスクに耐えうる住環境を提供するまちづくりが行われたと考える。	○	一時預かりや、子育て相談の機能を有する子育て世代包括支援センターが新設の複合施設内に整備され、子育て世代の地域の交流拠点として機能している。図書館や児童センターとの併設であることで、子どもや子育て世代にとってより身近な存在として利用しやすく、近隣地域全体に賑わいや人的交流をもたらしていると考えられる。		—
	地域情報板整備事業	◎					
	地域防災施設整備事業	◎					
	防災備蓄倉庫整備事業	◎					
	道路緑化事業	○					
	太陽光照明整備事業	◎					
	用水路跡地整備事業	○					
	公衆トイレ整備事業 (仮称)南流山子育て世代包括支援センター整備事業	○					
提案事業							
関連事業							

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	引き続き有効活用が期待される。今後も災害時の防災・減災のため、整備施設等の維持管理、機能の確認を図る。	施設の指定管理者とも連携し、利用者を中心とする子どもや子育て世代の支援、地域交流における中心的役割を担う場を提供する。	—
-------	---	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標3					
指標名		住み心地が良いまちだと思ふ人の割合			住み続けたいと思ふ人の割合					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	近隣公園再整備事業	△	公園や歩道、駅前の情報板など、住民の利便性や、景観が向上した。 当該計画での整備箇所は地域内の一部にとどまることや、活動範囲が市外に及ぶ住民が多いと考えられる地域であることから、住み心地の良さについても全面的な同意よりは、部分的な表現(「どちらかと言えば良い」)が多くなったのではないかと考える。	II	△	公園や歩道等の整備により住環境が向上した。 一方で、当該計画では、ハード面の整備が中心であったことから、長く生活する上で重要となるハード面以外の側面には影響が及びにくいものである。 そのため、本指標で焦点を当てた「『ずっと』住み続けたい」という考えを想定ほどには増加させることができなかったと考える。	II	—		
	地域情報板整備事業	△								
	地域防災施設整備事業									
	防災備蓄倉庫整備事業									
	道路緑化事業	△								
	太陽光照明整備事業									
	用水路跡地整備事業	△								
公衆トイレ整備事業	△									
（仮称）南流山子育て世代包括支援センター整備事業										
提案事業										
関連事業										

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	当該計画で整備した事業の維持管理に加え、引き続き、地域のニーズや住環境の把握に努め、適切な整備事業を進めていく。	住民が現在の生活の利便性・快適性だけでなく、将来にわたって良質な住環境を享受できるまちづくりを行う。	—
------------------	--	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係各課	関係各課の担当者	令和5年10～11月	総合政策部企画政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
新たな住民が多く、コミュニティ施設の不足による住民間の連携が希薄であることから、地域活性化の拠点となる場の整備	整備した公園では、近隣住民への事前の聞き取り等を通して、整備工事の設計段階から住民のニーズを反映させた。その結果、園路の拡幅をはじめとしたバリアフリー化、インクルーシブ遊具の導入、地域のお祭り等を開催できる広場の確保などが実施され、さまざまな人にとって利用しやすく、地域の憩い・賑わいの場となる公園に整備された。 また、一時預かりや子育て相談機能を有する子育て世代包括支援センターを整備したことにより、子育て世代の孤立を防ぐ地域交流の拠点の場が生まれた。	さらなる地域活性化のため、住民はもちろん、民間の声・力を取り入れた駅前のみちづくりの推進	なし
定住人口・交流人口の増加に対応した防災備品の確保や避難所の確保	公園への防災施設の整備や、小学校への防災備蓄倉庫の整備により、地域の災害に対する備えが強化された。	鉄道交通の利便性等から、引き続き住民数の多い地域としての災害への備えが必要と見込まれること	
災害時に限らず安心安全で快適な生活を日常的に実現するための暮らしやコミュニティに配慮した施設整備	日常的に使う道路インフラである歩道や用水路跡地、地域情報板の整備により、利便性や安全性、景観といった観点からも住環境が向上した。	当該計画で事業を実施した以外の箇所についても、引き続き必要な整備等を進めていく。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	整備設備や箇所が継続して利用者にとっての住み心地の良さや、快適性を有すること	当該計画で整備した公園等の適切な維持管理に併せて、利用者が設備を快適に使い続けられるよう、整備箇所の周辺環境についても快適性の向上を図る。	公園や道路の定期的な清掃や草刈りによる維持管理に加え、みどり豊かなまちなみの形成を図るための街路等への植栽をはじめとした緑化事業
	公園や歩道といった居住エリアの快適性を高めたことによる地域の魅力を、地域全体の賑わい創出や活性化につなげること	市の中心である流山おおたかの森駅周辺を補完する副次交流拠点としての更なる発展を目指し、土地利用の在り方や、民間活力の活用とその体制づくりを検討していく。	駅前の活性化のため、土地の高度利用化と良質な街並みづくりを促進するための指針等について、地権者や事業者への周知。

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	さらなる地域活性化のため、住民はもちろん、民間の声・力を取り入れた駅前のまちづくりの推進	上記A欄同様、市の中心である流山おおたかの森駅周辺を補完する副次交流拠点としての更なる発展を目指し、土地利用の在り方や、民間活力の活用を検討していく。	駅前の活性化のため、土地の高度利用化と良質な街並みづくりを促進するための指針等について、地権者や事業者への周知
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	想定避難者数を基に、食品、飲料水その他生活必需物資を計画的に防災備蓄倉庫に整備する。	新設小学校・中学校を含めた地域内公共施設の指定避難所としての機能強化や防災備蓄の整備

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input checked="" type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	市民の安心安全に関する満足度	%	49.8%	H28	54.8%	R4	確定	○	59.5%	○	あり	-	-	-	-
							見込み	○			なし	-			
指標2	住み心地が良いと思う人の割合	%	29.9%	H28	35.0%	R4	確定	○	23.5%	×	あり	-	-	-	-
							見込み	○			なし	○			
指標3	住み続けたいと思う人の割合	%	43.7%	H28	48.8%	R4	確定	○	38.8%	×	あり	-	-	-	-
							見込み	○			なし	○			
指標4	地区内の子育て施設の利用者数	人	40,000人	H28	65,000人	R4	確定	○	86,535人	○	あり	-	-	-	-
							見込み	○			なし	-			
その他の数値指標1	住み心地が良いと思う人の割合(そう思う+どちらかと言えばそう思う)	%	83.5%	H28	/	/	確定	○	82.7%	/	/	/	-	-	-
							見込み	○							
その他の数値指標2	住み続けたいと思う人の割合(ずっと+当分住み続けたい)	%	80.1%	H28	/	/	確定	○	88.3%	/	/	/	-	-	-
							見込み	○							
その他の数値指標3	住み続けたい理由に「周辺の住環境」を選んでいる割合	%	29.7%	H28	/	/	確定	○	52.0%	/	/	/	-	-	-
							見込み	○							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標・成果の達成	うまくいった点	毎年実施しているアンケート回答の数値を利用することにより、数値的な値を取得することができ、事業効果を客観的に確認することができた。防災や子育てなど、具体的なテーマに焦点をあてた指標を設定することで、当該計画の特徴を捉えることができた。	都市再生整備計画作成時に、地区の特性に応じた課題と目標を明らかにすることにより、事業を集中し、適切な数値目標を設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	公園や歩道等の整備は市民等の生活に直結するものであり、一定の効果があつたものとする。一方で、目標値に達することができなかった指標もあり、その理由として、継続的なデータを取得するため、毎年実施している市民向けアンケートを活用し、南流山駅利用者の回答を利用しているが、当該計画内の事業箇所の効果は部分的である可能性があり、事業効果を正しく測定できているかについて課題が残った。	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点	本計画では、公園や歩道など、日常的に使用する施設から、有事の防災設備まで、さまざまな施設の整備を行ったことから、まち全体として魅力が向上したと思う。	指標の設定の際には、定義や取得方法や、数値では測れない効果の影響をよく検討し、有意な効果測定ができるよう工夫する必要がある。
	うまくいかなかった点	4段階の評価の内、最上位の回答のみを取得したため、実績値に偏りが生じてしまったと思われる。また、数値で測れない効果について、十分に検討することが出来なかった。	
住民参加・情報公開・官民連携	うまくいった点	南流山中央公園の再整備について、近隣住民の意見を広く聞き取る機会を設け、設計段階から反映させることで、地域のニーズに即した事業を実施することが出来た。	必要に応じて、事業の初期段階から、市民の意見を募り、事業内容への反映に努める。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業・評価の進め方	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業関連制度の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

【現行の都市再生整備計画】

初石駅周辺地区、南柏駅周辺地区、流山本町周辺地区、利根運河周辺地区、流山おおたかの森駅周辺地区、江戸川台東口周辺地区

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和5年10月21日～11月6日	令和5年10月21日～11月6日	担当課への郵便、 電子メール、FAX等	総合政策部企画政策課
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に掲載	令和5年10月21日号	令和5年10月21日～11月6日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	企画政策課窓口や市内公共施設において供覧	令和5年10月21日～11月6日	令和5年10月21日～11月6日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	<p>日本大学名誉教授 横内 憲久 氏</p> <p>千葉大学大学院教授 木下 剛 氏</p> <p>筑波大学客員教授 飯田 直彦 氏</p>	令和5年11～12月	総合政策部企画政策課	—	—
その他の委員	なし				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省の「都市再生整備計画事業等 評価の手引き」に則り、適切に作成されている。 指標としている項目(市民の「住み心地が良い」「住み続けたい」等の意向)は、当該計画で実施しているハード中心の事業だけで決まるものではないため、アンケート項目だけで事業の効果を正確に判断するのは少し無理があると思われるが、それを補うような考察ないし評価指標を加えられたことには賛同したい。
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> 継続して実施している「まちづくり達成度アンケート」の結果を用い、客観的指標としていることは評価できる。 南流山駅利用者のアンケート結果を抽出していることから、ある程度の対象者の限定は図られているが、当該計画で事業を実施した施設に限定した評価としては課題があると思われる。 指標2・指標3について、「どちらかというと思う」および「当分は住み続けたい」を加えたその他の数値指標1・その他の数値指標2では、従前値より実績が上昇している。このことについては、妥当と思える。断定的な回答(そう思う)より、多少振れる回答(どちらかという)の方が多くなるのはふつうである。
	実施過程の評価	<ul style="list-style-type: none"> 公園や子育て世代包括支援センターといった、市民生活に直結する施設について、計画設計時点から対象市民の意見を直接取り入れる取り組みとして、「学識経験者への意見聴取」、「現地でのオープンハウス」、「自治会へのアンケート」、「学童へのヒアリング」等、多数の方法をとっていることは評価できる。
	効果発現要因の整理	<ul style="list-style-type: none"> 指標1及び指標4については、施設整備の目的と評価項目が直結しており、適切に整理されていると考える。一方、指標2及び指標3について、施設整備と直に結び付きにくいとした所見も妥当な見解と思われる。
	事後評価原案の公表の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 広報に掲載した上で、ホームページや窓口等にて公表した方法は適切である。 意見が無かったことについては、地域の町内会的組織や住民等諸活動団体などに資料を配布して意見を募るなど、プッシュ型の意見収集システムの試みなどを検討されたい。 初見では、理解しにくい様式であったように思われるので、より分かりやすい形で公表できるとなお良い。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 今回の計画が対象とした施設の運営にあたっては、南流山駅周辺地区及びその外周にある地区に、過去2回の大きな人口成長の各機会に居住を始めた様々な年齢階層の市民が暮らしていることを考慮し、今後のまちづくりへの理解と協力を求める機会とすることを検討できないか。 各事業の実施部局や施設開設者へのヒアリングが、評価項目の上位にある「まちづくりの目標」や「整備方針」の達成状況や事業として定めた意図、今後の課題などを把握あるいは発見することにもつながったのではないかと考察する。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> 事後評価委員に対し、資料を用いた事前説明、書面による評価、現地確認といった順序で行われており、適切な手順であった。 妥当かつ的確に進められたと判断する。

審議事項※1		委員会の意見
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少社会において、いまだ人口が増加している流山市ではあるが、流山市総合計画(2020年3月)の将来人口推計によると、令和9年が人口のピークであり、その後は減少に転じる見込みとなっている。流山おおたかの森駅、南流山駅以外の鉄道駅周辺も、立地適正化計画の都市機能誘導区域としていることから、これらの駅周辺についても都市の魅力向上につながる施策を行っていく必要がある。 ・「効果を持続させるための基本的な考え方」のところに、「実施過程の評価」にある「持続的なまちづくり体制の構築」に関わる内容をもっと強調できないか。「民間活力の活用を検討」の部分は、もう少し踏み込んで「民間活力の活用とその体制づくり」といった表現にできると良い。
	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目だけでは指標の達成度や事業の効果を正確に評価できない側面があるので、別の評価方法も検討することが望ましい。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南流山地区では、木地区の土地区画整理事業による基盤整備が注目されるが、土地区画整理事業区域外である南流山中央公園の再整備を実施したことは、土地区画整理事業区域内外の格差解消の視点から有意義であった。 ・南流山駅周辺地区は地震による被害想定だけでなく、外水氾濫の想定や内水氾濫による道路冠水や家屋浸水の履歴もあるので、今後の都市再生整備計画では洪水減災もまちの課題ととらえ、具体的な事業を構想、展開するべきと考える。 ・今回の計画で対象とした地域は南流山駅周辺であるが、その事業効果が及ぶと思われる区域として、現在、事業が終了しつつある木土地区画整理事業施行区域や、南流山土地区画整理事業の施行時期とほぼ同じくする新松戸中央土地区画整理事業施行区域があると思われることから、今後のまちづくり方策の作成においては、それぞれの関係課がこれらの計画対象区域を超えて「招き、招かれるまちづくり」への展開に期待したい。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当であることを確認した。 ・流山市における都市再生整備事業は、昨年事後評価を行った「流山おおたかの森駅周辺地区」、今回の「南流山駅周辺地区」に加えて、現在進行形で、「初石駅周辺地区」、「南柏駅周辺地区」をはじめとした複数の整備が実施されている。鉄道駅は人の集散を促す機能を有していることから、市内の各駅を中心に個性を生かす取り組みは、今後のまちづくり方策の方向性としては評価できる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・2度の大きな人口増を経験した本地区及びその周辺における居住者特性(例えば居住年数や年齢とアンケート回答結果とのクロス集計、関連する小中学校の児童生徒数の推移、駅乗降客数の推移、バス利用者数の推移、事業対象の有無にかかわらず整備開設した施設の利用者数や維持改修などの変遷など)のデータを整備し、今後の市内の他の地区における都市再生整備計画の策定や事後評価においても、このようなデータを台帳として作成し、役立てられないか。 	

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---